

会員紹介：小森 剛さん

私の略歴



1977年千葉県生まれ。2000年に大学卒業後、現在の国際協力機構に入構しました。経理部、アジア第一部、外務省出向を経て、ワシントン事務所、フィリピン事務所に勤務。再度ワシントンに戻り公共政策と平和構築を勉強の後、現在は、ASEAN連携を担当する国際協力機構、東南アジア・大洋州部に勤務。

SRID との出会い

大学1年生が最初に悩むテーマ「これからの4年間をどう過ごすか」。真面目にも不真面目にも、これまでの人生にはなかったありとあらゆる選択肢が目の前にある。その中でとにかく一つ何か決めて、4年間過ごしてみよう、それが自分なりの回答でした。その「何か」が問題。スポーツ、サークル、勉強、その他。不真面目な選択肢に対しては何でもできる自信があったので、「何か」は真面目なものにしようと、当時関心があった開発か環境の2択にまで絞りました。自分で動かないと解は見つからないと、まずは歩いてみることに。最初はたまたま目の前にあった国連大学、次には学生が運営するイベントなど。泊りがけのイベントも数多くあり、学生なりの熱い議論が交わされていました。

正直、はっきりとしたきっかけは覚えていないのですが、早稲田大学で開発を勉強しているサークルがあるということを知りました。恐る恐る出かけてみると、真面目に勉強している学生グループがあり、これがSRID学生部でした。どこまで関わるか見極めようと思っている中で、次回までにこれを勉強し発表して、というような流れになり、いつの間にかどっぷりと浸かっていました。浸かった理由はいくつかあったのですが、中でも、そこで知り合うSRID本会（と呼んでいました）の方々との出会いは大きかったと思います。自分の勉強している世界を大きく広げてくれるもので、学生ながら率先して色々な集まりに参加させていただきました。夏に開催される泊りがけのシンポジウム（当時は筑波でしたでしょうか、その後は日帰りになってしまい残念ではありましたが）、富国クラブや三上家へも度々お邪魔しました。

時間は過ぎ、いつの間にか学生部代表になっていました。その頃には早稲田出身の学生もいなくなり、開催場所を転々とする家なき子になっていました。それでも毎回多くの学生の参加があり、また、本会メンバーにも度々お越しいただきました。

勉強会のみならず、フィリピンへのスタディツアー、国際協力フェスティバル（現グローバルフェスタ）にも参加しました。当時は国際と名のつく学生サークルが数多くあり、サークル間の交流も頻繁に行われていました。ここで知り合った友人は、今は仕事のパートナーであったり良き相談相手であったりと、交流が続いています。

交換留学でフィリピンへ

大学3年生の頭に大学の交換留学の制度を利用できることになりました。折角開発の世界に関わったのだから、途上国に留学しようと決めていたところ、運よく大学がフィリピン大学と交換留学を始めるということになり、第一期生になることができました。特定の学部に所属する必要はなかったのですが、主には開発経済、コミュニティ開発の単位を取得しました。生活は留学生が集まる **International Center** で、居室はシャワーとトイレを挟んで2部屋が繋がっており、各部屋2名。前半はエリトリアからの留学生、後半はなぜかフィリピン人と同室になりました。宿泊費は月 2,000 円強、食費は一食高く 200 円程度。月に 3 万円あれば相当良い生活というイメージでした。朝には鶏とジプニーの音で目が覚め、夜は暑く扇風機が必須という生活でした。そのような中、大学4年生で就職活動が重なったことから、JICA の面接のために少しだけ帰国しました。

面接を数回受けた後、フィリピンに戻り授業から寮に戻ってくると、寮の管理人が大至急電話をくれと JICA が言っていると騒いでいて、寮の中が大騒ぎになっていました。（当時のフィリピンは携帯電話が出始めたころで、自分では持っていませんでした。この携帯が将来エストラダ大統領を退任に追い込むとは） JICA に電話をすると、内定！という連絡で、その夜はパーティになったのは言うまでもなく。そこからの留学生生活は大きな荷が肩から下りたので大満喫といたいのですが、卒論に追われ年末年始は殆どパソコンと戦っていました。交換留学が一年あったにもかかわらず、無事4年間で卒業を迎えることができました。

従事した仕事内容

東京での仕事（経理部、アジア第一部、出向）

卒業式前日までには日本に戻り、急いで就職の準備を整えました。最初の部署は経理部。全く想像していませんでしたが、BS/PL を読めるようになったのは収穫でした。その後はインドネシア担当を経て、外務省の円借款を担当している部署に出向となりました。イラク円借款 35 億ドル、トルコのボスポラス地下鉄、エジプトの博物館や発電所などの大型案件と出会え、これらが完成した時には旅行に行こうと思っています。最近の政情不安が少し心配ではありますが。ちなみに、エジプトの E/N は 3 か国語（英語、日本語、アラビア語）で締結する必要があり、読めもしないアラビア語の修正を先方政府に依頼するなんてこともしていました。

ワシントン事務所

最初の在外勤務は予想もしないワシントンを命じられました。関係機関との援助協調のような仕事や米議会の動きのウォッチングに加え、マイアミにある緊急援助物資管理という業務もありました。また、米国は差別やセクハラにも厳しい国であったため、雇用法などもだいぶ勉強しました。ワシントンでの3年近い滞在が自分の視界を大きく広げたといいます。各国大使館、世銀・IMF、米国政府の方とは公私ともに交流させていただき、夕方に1時間だけバーに集っての情報交換から



ワシントン・ケンウッドの桜 テニスまで、東京ではなかなか味わえない貴重な経験になっています。自宅開催のパーティや野外バーベキューについては任せろというくらい開催したので、SRIDでも機会があれば是非と思っています。

フィリピン事務所



先進国のみで一回目の赴任を終わらせるわけにはいかないと考えていましたが、運よくフィリピンへ再度行ける幸運に恵まれました。留学中には殆ど足を踏み入れなかったマカティに自分が住むことになるとは。担当は和平交渉が進むミンダナオ支援。国際的にも珍しい枠組みで進む和平交渉の中で、和平交渉後を見据えた支援を検討するという重役をいただきました。何年も前に

フィリピン事務所のスタッフと MNLF（モロ民族解放戦線）との和平が成立し自治政府が設立しているものの、分派の MILF（モロ・イスラム解放戦線）との紛争が散発的に続いていました。着任した2008年は治安が悪化し始めたところでした。

住民間での信頼関係が崩れている可能性がある中で、どのような人たちと信頼関係を築いていくのか、この点が最も気を使うところでした。また、治安情報が何よりも肝心で、無理しない姿勢を貫きました。何かあってからでは手遅れであるし、今動いている業務すべてに対しダメージを考えると、少しでも悪い情報があるときには行かないという判断にしました。当然歯がゆさとの戦いではありましたが。現場の判断を最重視するという組織の考えが浸透しており、この点で悩むことがなかったのは幸いでした。また多くの良き友人たち、仕事仲間に助けられながら内容の濃い2年間を過ごせました。フェースブックのお蔭で、今でも当時のカウンターパートたちと気軽につながっており、来日の際や訪比の際にお茶を楽しんでいます。

アメリカ留学

ミンダナオでの経験をそのまま終わらせるのはもったいないと、この分野を体系的に身に付けておこうと再度ワシントンの大学に留学。今度は勉強に行く機会を得ました。慣れ親しんだ街なので、心配することなく勉強に集中でき、以前からの知り合い、新たな友人たちにも巡り合うことができ、たった一年でしたが、十分に満喫できました。現場での体験を少しでも還元できたらと考えながら授業に臨んでいましたが、どこまでできたかは同級生や教授たちの判断に委ねたいと思います。唯一残念な点は、離任の都合から1セメスター遅れて参加したため、多くの時間を過ごした同級生と卒業式に出られなかったことでしょうか。翌年の学生とも1セメスター同級生になれたので残念でもあり良い点でもありましたが。

現在の仕事（東南アジア・大洋州部）

日本に戻ってからは ASEAN 関係の仕事をしています。地域機関としての ASEAN です。コンセンサス方式の意思決定となる ASEAN では、一か国一か国が拒否権を持っていることを意味しており、各国が抱くものとは全く異なるポリティクスが働いています。この ASEAN が 2015 年末の ASEAN 共同体形成に向け最後の段階に入っています。来年ミャンマーが初めて議長国を務めることになり、仕上げの最も大事な時期を支えることとなります。一方で、2015 年までのロードマップにはまだまだやり残しがあるというのが実態で、2015 年以降も見据え、各国が何に重点を置いて残り 2 年間で過ごすかが大きなテーマとなっています。

ASEAN 共同体がどういうものかを語るのは非常に難しいのですが、3つの共同体を総合して ASEAN 共同体と呼びます。良く知られるのが ASEAN 経済共同体 (AEC) で、関税の撤廃やモノ、資本の自由移動などを目標としており、進捗は各国から提出される報告を基にスコアカードという形で可視化されています。他に、政治安全保障共同体 (APSC)、社会文化共同体 (ASCC) がありますが、APSC に関してもスコアカードの必要性など議論されていますが、明確な進捗状況は把握しにくい状況です。これらに加えて、先発 ASEAN と後発 ASEAN の開発格差を是正しようという ASEAN 統合イニシアティブ (IAI) も存在し、3つの共同体のブループリントと IAI のワークプランを総合する形で ASEAN のロードマップと呼ばれています。また、これらのテーマを串刺しにしたテーマとして連結性強化があり、物理的、制度的、人的連結性の強化のためのマスタープランを作成しています。

加えて、ASEAN 憲章が発効して 5 年目の今年はこれを見直す機会でもありますが、前回の策定作業では多くの議論があったものの結局コンセンサス方式や内政不干渉が残されたことから、どこまで議論が進むかは不明です。ASEAN は ASEAN、ASEAN Way

を重んじているというのが 2015 年を 2 年後に控えた現在の ASEAN の現状です。

仕事上の苦勞と喜び

仕事上苦勞はあまり感じないのですが、部署が変わるごとに新たなセクターに対応していかないといけない点が苦勞でもあり、新たなものに出会える喜びでもあります。また、喜びを多く与えてもらえる職場だと実感しています。ミンダナオでは紛争が続いていた時期でもあり、これまで外国人が踏み入れたことが無い村にお邪魔した際に大歓迎をしてくれたこと、長い議論の末、法案が出来上がったことなど良い思い出です。当時のカウンターパートとは時々コーヒーをご一緒する機会がありますが、思い出話に花が咲きます。

国際開発とどのように関わってきたか

ドナー会議はどの部署にいても参加するのですが、現在の部署では ASEAN の会議に出ることが多く、担当しているプロジェクトの説明を求められることが多くあります。前述しました拒否権が発動されないよう、10カ国のコンセンサスを得ながら進めていくことが最も重要で、事前の根回しは某国以上に重要です。ここに失敗しているドナーを良く見かけます。加えて、関連会合は通常年2回しかなく、しくじると6カ月先まで事が進まなくなります。プロジェクトの中身を詰めることと同じもしくはそれ以上に根回しに配慮せざるを得ないのが ASEAN です。最近では RoRo 船の調査を ASEAN と共に進めてきたのですが、たった1年間の調査であったにもかかわらず10を超える関連会合に説明をし、その都度、ASEAN 事務局とも相談しながら、根回しを行ってきました。かなり ASEAN の政治面については知ることができたのではないかと思います。

最近では、ASEAN 自身は2015年で頭がいっぱいな時期ですが、AEC 設立後の姿を捉えてどのような課題が生じうるか、内々勉強を始めています。大学の先生方とも意見交換をさせていただく機会が増え、非常に勉強になっています。

私の趣味と生き方



2009 年チリ

これまで仕事を中心に書いてきましたが、少しプライベートに触れたいと思います。働き始めてから特に力を入れたものにスキーがあります。現在では私のイメージ＝スキーとなっている人もいるくらいで、SRID の方には意外かもしれません。北国出身でもない私がなぜか。きっかけは友人に連れて行ってもらったスキーで腰まで雪に埋まり、悔しい思いをしたのがきっかけです。大自然の中でスピードに身を預けていると頭

の中を真っ白にでき、何よりのストレス解消になります。始めたころは無茶をし、ちょっとした怪我也も経験したことから、しっかり基礎をやろうとスクールや知人に教えてもらう日々が始まりました。並行して、飛んだり跳ねたりといったこともやっていました。とにかくはまってしまい、ラージヒルなどに代表されるスキージャンプ以外のものには殆ど手を付けました。基礎、レース、モーグル、パーク、パウダー、崖など。国内のスキー場は室内外問わず、国外ではヨーロッパ、北米、南米のスキー場を訪れました。特にアメリカのだだっ広いスキー場やチリのスキー場から見るサンチャゴ上空に広がる雲海など思い出に残っています。

仕事以外で知り合う多種多様な人々との会話がたまらなく面白く、一つの趣味のもと、山の上での数日間に集中し、山を下ると「次は来年だね」というようなあっさりした関係も心地よいものがあります。夏にもトレーニング施設に行くとオリンピックでも見るような顔ぶれがあったり、非日常であるこの世界は自分の人生にとって不可欠な存在になっています。

現在では子供が1歳になり、つかまり歩きを始めているので、そろそろ山にと考えは始めている今日この頃です。